

2024年4月15日 SEAJAPAN2024

## 航路最適化で燃費削減を実証 N A P A、セミナーで日本とのコラボ事例紹介



船舶の設計・運航システムを手掛けるN A P Aは12日、国際海事展「Sea Japan 2024」に合わせて「 SHIPPINGソリューションセミナー」を開催した。航路最適化による燃費削減効果など、日本企業とのコラボレーションの事例を紹介した。

日本海事協会（NK）は、温室効果ガス（GHG）排出管理ツール「ClassNK ZETA」で、N A P Aの協力を得て追加している新機能などについて説明。燃費格付（C I I）の相对比较やシミュレーション機能、欧州の排出権取引制度E U - E T Sへの対応機能などを追加してきたことを紹介し、欧州の燃料油規制「FuelEU Maritime」に対応した機能も開発中で「N A P Aの高度な知見を活用し、より便利で使い勝手の良い機能を追加していく」とした。

またN A P Aは、住友重機械マリンエンジニアリングと連携して実施した、ノ  
円筒帆と航路最適化システムを組み合わせた場合の燃料と二酸化炭素（C O 2）排  
果の実証結果も紹介。6航路で年平均19%の削減効果が期待でき、北大西洋航路  
が約28%に達することを確認した。

丸紅とはケミカル船4隻を対象にした航路最適化システム「NAPA Voyage opt  
の導入効果を説明。1日～5日程度の短い航海でも燃費削減できるかどうかを確  
で、4隻で平均2.3%～5%強の削減効果が認められた。丸紅とはさらにシステムの高度化に向  
けた共同研究を進めていることも明らかにした。

セミナーには造船所や海運会社、船級協会などが参加。ペカ・パカネン・N A P A 副社長は

サイトの利便性向上  
や広告配信などのた  
め端末情報等を利用  
しています。詳しく  
は「個人情報保護方  
針」をご覧ください。



「ステークホルダーが集まることで脱炭素への取り組みに繋がれば。海事産業の諸課題は複雑なため、当社だけで解決するのは困難。パートナーと連携しながら、ソリューション提示していきたい」とあいさつした。

## 関連記事

- ＞ 日船工、Sea Japanに合わせ学生イベント、OB・OG等との交流会を開催
- ＞ 富士貿易、Sea Japanに合わせレセプション、深田社長「激変の時代、なすべきことを模索」
- ＞ 船舶海洋技術セミナー、アンモニア燃料タグが就航目前、日本郵船らがGX関連の開発紹介
- ＞ 駐日トルコ大使館、都内でパーティー、日本・トルコの実業でのビジネス拡大へ
- ＞ S S A、Sea Japanで講演、星港の脱炭素化への取組など紹介
- ＞ 「今治のキーマンが描く海事産業の未来」、バリシップ開催記念トークショー
- ＞ 伊藤忠商事ら6社、アンモニア燃料船を共同開発、NSYでケープ型建造へ
- ＞ 青島SunRui、「Sea Japan」に合わせ懇親会、新燃料など新領域の分野を展開
- ＞ 米ベソン社、EU-ETSセミナー開催、「Sea Japan」で
- ＞ 邦船大手3社、「Sea Japan」に出展、低・脱炭素の取り組み色濃く
- ＞ 日本郵船・横山氏、Sea Japanで講演、燃料転換への取り組み紹介
- ＞ **Sea Japanセミナー、海事業界の女性が討論、働き方などテーマに**
- ＞ 内航NEXTセミナー、MTI・川崎近海・商船三井内航が講演、船員不足などの課題解決テーマ
- ＞ 「バリシップ2025」来年5月開催、今治造船社長らが会見、トークショーも開催
- ＞ Sea Japan特別企画：未来を創る、《インタビュー》日本海事協会・坂下広朗会長、持続可能な海上輸送、認証で追求

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.

サイトの利便性向上や広告配信などのため端末情報等を利用しています。詳しくは「個人情報保護方針」をご覧ください。

